

サマースクールⅡ「生きもの調査隊(外来魚編)」を開催しました!

今年のサマースクールでは、生きもの調査隊の新たな展開として、実際に釣りあげた外来魚を解剖して何を食べていたかを調査する新企画「生きもの調査隊(外来魚編)」を開講しました。

この講座は申し込み受付から数分で定員締切りになるほどの人気となりました。当日は、非常に暑く、釣りには決して良いコンディションではありませんでしたが、予想以上に多くのブルーギルを釣ることに成功しました。その様子を一部紹介します!



本日のターゲット!



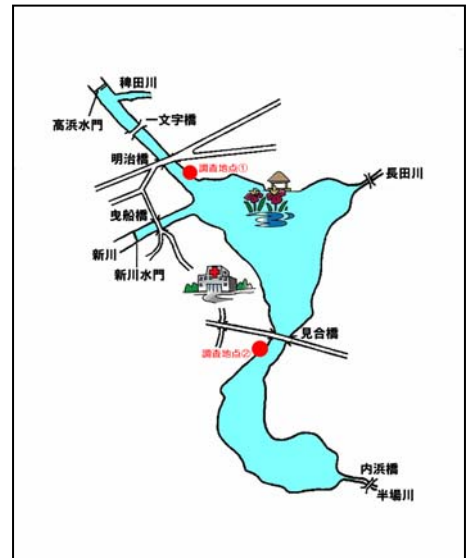
ブルーギル *Lepomis macrochirus*

北アメリカ原産の淡水魚で、成魚の全長は 20cm 前後に成長します。エラの一部が黒～紺色になっているのが特徴で“Bluegill (青い鰓)”の名もこれに由来します。現在では、日本各地の池に広く生息し、雑食性で生命力も強いことからブラックバス以上に在来魚に対して深刻な影響を及ぼしていると思われます。2005 年 6 月に施行された**外来生物法**では特定外来生物に指定され、**飼育や生きたままでの移動は禁止**されています。

INFORMATION & NEWS

釣り調査の基本データ

調査日時:2006年8月6日(日) 9:00~12:00
調査員数:20名+助っ人3名+スタッフ3名
場所:油ヶ淵周辺(碧南市)・右の地図参照
天気:快晴!(暑過ぎ!)
釣り方:竿(100均一製)、道糸2号、
赤ムシ針(ハリス1号)、ウキなど
釣れた魚:ブルーギル(35)、
マハゼ(1)、コイ(1) ※赤字は外来魚



▽ 写真は当日の釣り調査の様子



INFORMATION & NEWS

釣果 (たくさんのブルーギルが釣れました)



合計35尾!

解剖実験

午後からは釣ってきたブルーギルを実際に解剖してみました。

ブルーギルは背鰭の棘が鋭く、はじめて解剖するにはやや難しい魚です。解剖用のハサミの使い方や、解剖の手順を聞いた後、実際に実験にとりかかりました。初めて見る魚の内臓に少し驚きもありましたが、一匹の命を粗末にすることなく胃の内容物の調査まで無事に進めることが出来ました。



INFORMATION & NEWS

解剖結果&成果報告！

合計で 10 尾の解剖を行いました。食べていたものは次のとおりです。

解剖後に行った内臓のスケッチやブルーギルの解説を作成し、調査隊の成果として掲示板にまとめました。

(ブルーギルの胃の内容物)

- ①卵(未同定)、葉っぱ
 - ②アメンボ 20 個体
 - ③エビ(オキアミ?) 1、ガムシ 1
 - ④葉っぱ
 - ⑤アメンボ 8、エビ 2
 - ⑥サカマキガイ、水生昆虫の足と羽 2
 - ⑦アメンボ 2、エビ(オキアミ?) 1
 - ⑧ユスリカ
- あとの 2 尾は空胃でした



▲ ブルーギルのお腹から出てきた、たくさんのアメンボ



科学館2階で掲示中！

INFORMATION & NEWS

調査隊メンバー&講座の感想



(講座終了後に書いてもらった感想を一部紹介します)

- ・ つりをして最初つれなかったけど、時間がたったらたくさん釣れました。かいぼうしたときはくさかったです。メスだったので卵をたくさん持っていた。ブルーギルはほかの生きものを食べていた(たとえばアメンボ)
- ・ 外来魚は日本の生物をたべるからいけないけど、外来魚もかわいそう。魚をつったときはとてもうれしかった。かいぼうしたときはすごくもちわるくてはきそうになった。でも、魚の体の仕組みがわかってうれしかった。
- ・ 釣りをして2匹つれた。かいぼうのときにオスでなにも食べていなかった。ほかのところはアメンボやエビ、葉などを食べていた。初め小魚を食べていると思ったけど、いろいろと食べていたことがわかった。
- ・ 釣りの時はブルーギルが1匹つれてうれしかったけど少し解剖のとき「げえー」と思いました。でも、食べているものがエビ丸まる1ぴきはごうかなブルーギルだと思いました。ほかにはガムシ1ぴきがバラバラで出てきたことがびっくりでした。
- ・ ブルーギルをみたのは初めてでした。かいぼうしたとき気持ちよかったです。でもこんなに食べていたなんてびっくりしました。でもアメンボやエビやハチを食べるなんて初めて知りました。ぼくはびっくりしました。でも虫を食べるなんてすごいな。